

RAMP

Road Asset Management Platform

-道路アセットマネジメントプラットフォームの概要について-

「道路アセットマネジメントプラットフォーム」とは

独立行政法人国際協力機構(JICA)では、開発途上国において道路インフラの維持管理能力強化に関する技術協力プロジェクトを実施し、開発途上国の道路行政を担う中核的な人材の育成を展開しています。日本の経験・知見を活用するために道路アセットマネジメントプラットフォームを立ち上げ、道路インフラの予防保全型の維持管理の定着やアセットマネジメント手法に基づいた効果的かつ効率的な道路行政の実現を目指しています。

道路アセットマネジメントプラットフォームの活動概念図

活動目標

開発途上国における道路インフラ維持管理の課題解決に向け、国内外の知見を集約し、以下のような取り組みを通じて、開発途上国での道路アセットマネジメントの定着に向けた道路行政人材の育成を目指します。

01

道路橋梁維持管理技術協力プロジェクト

- ・マニュアル類のローカライズ、制度化支援
- ・パイロットワークや現地デモによる試行的導入
- ・PDCAサイクルの定着
→ 現地における産官学連携の基盤を構築

02

道路交通分野の課題別研修

- ・先端・高度技術の知見習得
→ 本邦の技術体系(産官学)との交流
- ・参加国間での情報共有
→ 相互協力環境の醸成

03

長期留学生の受け入れ

- ・基礎～高度技術の習得
- ・大学や卒業生のネットワークを構築
→ 卒業後は現地との橋渡し役、長期的には道路AMのリーダーとして活動を期待

04 その他の活動

- ・民間技術活用 ・大学連携 ・道路橋梁維持管理に関する成熟度評価
- ・地方自治体の取組紹介 ・日本人技術者の技術研鑽



技術協力、国内外の知見を集約
産官学連携のもと
様々な活動を通じて情報発信



道路アセットマネジメントプラットフォーム

土木学会

国土交通省
地方自治体

留学生
受入大学

□ 国土交通省

- ・海外展開戦略(道路)
- ・インフラメンテ国民会議
(海外市場展開フォーラム)

□ 土木学会

- ・JICAとの協力覚書
- ・SIPインフラ技術の引継ぎ
- ・関連小委員会

□ 民間ほか

- ・日本アセットマネジメント協会
- ・高速道路会社
- ・民間インフラ技術開発会社の海外実装

RAMP

道路アセットマネジメント
プラットフォーム

民間ほか

□ 地方自治体

長崎県 / 岐阜県 / 千葉県君津市
熊本県玉名市 / 新潟市 他

□ 留学生受入大学

北海道大学 / 東京大学 / 金沢大学 / 金沢工業大学
岐阜大学 / 長崎大学 / 琉球大学 他

国内支援委員会 National Support Committee

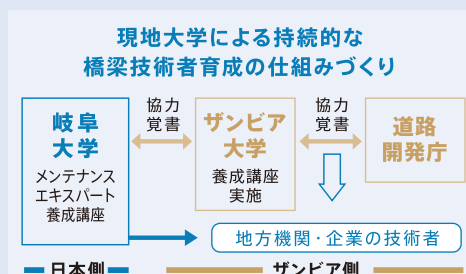
本プラットフォームの活動を適切かつ効率的に推進するため、活動内容について専門的かつ技術的見地からの助言を得ることを目的として、土木学会や国内の有識者からなる「国内支援委員会」を2020年3月に設立し、技術支援が得られる体制を構築しています。主な活動内容は下記の事項です。

- ☑ 道路インフラ維持管理に係る技術協力プロジェクトに関するもの
- ☑ 道路交通分野研修事業に関するもの
- ☑ その他、民間企業・大学等との点検診断や国・地方自治体の道路アセットマネジメントに関する取り組みや知見の集約

主な活動紹介

技術協力プロジェクトの事例

ザンビアでは継続的な橋梁技術者育成が課題となっていました。そこで、岐阜大学が実施している橋梁技術者の育成制度「メンテナンスエキスパート養成講座」の仕組みをザンビアに導入し、ザンビア大学が中心となって持続的な技術者育成を行う体制の構築を目指しています。



課題別研修(短期研修員)

橋梁の維持管理は、道路に比べて費用がかかり、また高度な点検や診断、補修技術が求められます。本研修では、開発途上国における計画的な予算配分、日常的な維持管理体制の強化、技術力の組織的な向上、予防保全の導入等の実現に向けて、日本の経験・知見に基づく講義、実習等を実施しています。また研修実施後の技術・知識の定着状況を確認するため、現地でのモニタリング活動等を行い、翌年度の研修内容の改善を行っています。



留学生(長期研修員)

道路アセットマネジメント技術に係る中核人材を育成するため、各国省庁の職員、技術者を日本の大学に進学（修士・博士留学生）させ、研究・開発の機会を提供しています。国内企業・団体でのインターンシップ機会等、国内企業・団体の有する技術を学ぶ機会も提供しています。帰国後は技術協力プロジェクトといった ODA 事業への関与とともに、日本の維持管理・補修技術の展開に資する活動等、各国における中核人材として活躍することを期待しています。



道路AM成熟度評価の例

日本アセットマネジメント協会 (JAAM) からの助言を得つつ、各国の道路 AM 成熟度の評価手法の検討を進めています。成熟度評価を実施することで、各国の維持管理能力がレーダーチャートで確認でき、道路 AM 定着に向けた課題を把握することができます。技術協力プロジェクトの実績が豊富な舗装、橋梁を中心に検討を進めていますが、将来的には土工(斜面)やトンネルといった分野もカバーし、日本国内でも活用できることを目指しています。各項目を5段階に評価し、レベル1 初期段階、レベル5 をベストプラクティスとし、開発途上国では各項目ともまずはレベル3 の到達を目指すことにしています。

